

土佐のわらべ

第428号《第450回（2017. 7. 13） 子どもの本の読書会記録》参加者5人・文書参加1人

『霧のなかの白い犬』 アン・ブース／著 杉田七重／訳 あかね書房

ジェシーは、小さい頃からずっと犬がほしいと願っていました。木曜日の放課後、いつものように友達のケイトと一緒におばあちゃんの家を訪ねると、そこには美しい白い子犬がいたのです。大喜びするジェシーでしたが…。

7月の読書会では、青少年読書感想文全国コンクールの課題図書から読む本を決めることが多いのですが、今年は、小学校高学年を対象とした『霧のなかの白い犬』を読書会参加者の皆さんと読んでみました。

この本は、主人公や周囲の人々が抱えている、まさに今の問題から過去の問題まで、その日常に絡めて描かれています。ですから、読む人がどの人物に寄り添って読むか、また、どの事柄を深く考えていくかによって、語られる感想は様々でした。それではご紹介します。

- ・それぞれ問題を抱えている子どもたちが気になった。できたらフランがどう立ち直るか読みたかった。
- ・主人公ジェシーの、揺れ動く気持ちが手に取るようにわかり、かわいく思えるから読んでいけた。主人公がフランだったら、とてもとても…。初恋や友人関係、そして親の仕事とお金の問題等、子どもに近い目線で描かれているため、共感しやすいのではないだろうか。
- ・日本と異なる授業内容が、読んでいて面白かった。むこうの子どもが読むと身近に感じるだろうし、日本の子どもが読むと英国の学校や授業の様子がわかると思う。

・おばあちゃん以外にも、フランやケイト、ヤスミンといった主人公をとりまく子ども達の問題があり、様々な物語が絡み合っているように思っただ。

・タイトルにある「霧」から『夜と霧』を思い起こさせる意味があるのかなと思っていた。14頁のおばあちゃんのセリフにも「霧」という言葉が登場している。展開が進むにつれて、隠されていたものが露わになってくるのは、霧が晴れていくように感じた。良いタイトルだと思う。

・157頁「あなたがたは新しい世代です—過去に起きたことに責任はない、けれども未来について責任がある。」このベンのおばあさんの言葉が好き。子ども達に、このようにしっかり言ってあげることが大切だと思う。

・ベンのおばあさんの「どんな小さな偏見や人種差別も見逃さないでください。」という164頁の言葉は、全てのまとめになっている。

・今、自分たちがどう生きていったらいいのか、何を考えたらいいのか…。これが良いと言えない面もあり、今の日本も難しい。この本を読む事で、鵜呑みにせず考えるきっかけになってもらったら…。

最後にもう一つ、読書会で語られた感想を。「読書会でほかの人の感想を聞くのは、やはり面白い。自分では考えてもいなかったところから意見がくるから！」

この夏、この本を読む子ども達は、どんな感想を抱くのでしょうか。

(N. T)